

しかし一般に... インフライノベーション ほど「死の谷」が深い

他のイノベーションを生むイノベーションほど
それ自体の「死の谷」は深い

死の谷 (death valley)
研究成果からその実用化までの「儲からない期間」

17

インターネットの場合

パケット交換の論文(1961)から...
最初のARPANETの稼動(1969)
インターネットの商用解放(1990)
インターネットのブレイク(2000年台)まで
「死の谷」は数十年におよぶ

18

インターネットの 「死の谷」に 橋を架けたのは

米国国防省の多額の開発資金

19

日本の研究・開発の状況

- 企業が基礎研究が支えられない
- 軍事研究費がない日本



- 目標を定めることが大事
- その上で戦略を立て、必要な研究・開発を
 - cf) アメリカの「スーパー情報ハイウェイ構想」

20

目標としての「国勢維持」

- 世界の先頭を切って、過去に例のないレベルの少子高齢化社会に突入する日本
- いままで、就労に困難を覚えた人を労働人口にできないと、国が衰退する
- 物理的バリアフリーは進んできたが、「知らない」ので利用されないケースが多い



- 情報面からの社会のユニバーサル・デザイン化

21

目標としての「持続可能社会」

- 持続可能な社会の実現へ
- ライフサイクル・コストの重視へ
 - リサイクルからリユースへ
 - 素材レベルからの提案へ
- しかし、その実現のために不自由を強いられたり、大きな手間が必要とされると、民主主義下の先進国で広く受け入れられるのは難しい



- 利用者に負担をかけない最適制御
 - 基盤レベルで規定することで、個々に多様性を追及しても全体としての効率化と両立することができるようにする

22

目標としての「安心・安全」

- 犯罪・テロ・災害・食料品の汚染・医薬品の誤飲
カードの不正利用など多くの不安
 - 日本において、多くの人が求めるのは「安心・安全」
 - 安全は危険のないこと
 - 安心はさらに不安がないこと
 - そのための科学技術の利用だが、
機器の操作自体多くのエンドユーザには負担
 - そのために不安になるなら本末転倒
 - デジタル・デバイド
- ↓
- エフォートレス・セキュリティ

23

「ユニバーサルな 最適制御」の基盤を

情報面からの社会のユニバーサル・デザイン化
 利用者に負担をかけない最適制御
 エフォートレス・サステナビリティ
 インフラとして確立することにより多様性と効率化を両立

24